校 長 室 だ よ り（No.17）

令和４年９月28日
丹波市立黒井小学校長
谷口　千尋

コロナ禍の運動会

２学期の大きな行事である運動会を無事終えることができました。天候もさることながら、特に８月から９月の当日までの約３週間、新型コロナウイルス感染症の状況と熱中症に配慮しました。暑さのために練習を中止しないといけないことも多くありました。屋内での練習に切替えたり、練習する時間帯をずらして暑熱の影響が少ない時に練習時間を設けたりもしました。

暑さについては、気温や湿度、天候で判断できますが、新型コロナウイルス感染症については、見えないものであるために、人によって危機感が違い、何をどこまで配慮していけばよいのか難しいところです。なかでも感染後の状況については、後遺症の防止もふくめ気を遣うところです。

厚労省の「小児における新型コロナウイルス感染症の課題について」では、感染力の強いオミクロン株への置き換わりにより小児感染者の増加が指摘され、軽症者が圧倒的多数とはいえ、熱性けいれん、クループ感染症によって引き起こされる特定の呼吸症状などの合併症が目立ち始め、また極めて少数ながら入院患者や、死亡例も出ているとのことでした。第７波になってからはその傾向はさらに顕著に思われます。そのため、たとえ軽症であっても、リスクに応じて確実なフォローアップ体制が必要とされています。また、１週間以上の療養期間や待機期間となるため、たとえ運動能力の高い子どもでも運動不足が懸念されます。時間をかけて少しずつ運動量を増やしていくことが必要です。

これらのことから、新型コロナウイルス感染症にかかる相談機関にも助言いただき以下のように運動会に向けて学校全体で共通理解をしました。

- 何よりも新型コロナウイルス感染症の感染が拡大しないように練習から当日まで、会場設営や児童の動線も含め十分に検討すること
- 待機期間や療養期間の運動していない状況を考え、練習時間や内容、競技・演技内容については、十分に配慮すること
- 新型コロナウイルス感染症等の回復状況について配慮すること（発熱、咳症状、倦怠感等を健康観察で把握）
- 発達段階とその身体への負担（暑さ、緊張感、高揚感）に配慮すること

新型コロナウイルス感染症の流行する以前の運動会に比べて、競技種目が減ったり、内容の変更があったりしたのはこのようなためです。運動会後に頂きました保護者の皆さんの感想には、子どもたちの「頑張り」に目を向けて、「結果」よりもここに至るまでの「経過」をよく見ていただいている感想が多くあり、大変嬉しくおもいました。

今後もまだ、この状況は続くものと思われます。「おそれず、しかし侮らず」で with コロナを乗り切りたいと考えています。